

令和6年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

清水谷高校のミッション

本校は1900年創立の歴史と伝統を受け継ぎ、「愛と恕」の精神の下、個性と多様性を尊び、共生社会で使命を果たして幸せな人生を歩むための教育を行う。

めざす学校

生徒が本校で充実した学校生活を過ごす中で、明るい将来の展望を持ち、自他の個性を尊び、将来果たすべき使命を意識して、幸せな人生を歩めるように

- 1. かけがえのない存在として自分の能力を信じて、伸びしろに期待した高い目標に挑戦し、失敗して学び、達成で成長の喜びを実感する学校
- 2. 志や使命感を持ち、他者への感謝と思いやりを忘れず、礼儀を弁えて、自らの品性と教養とを磨く学校
- 3. 毎日を充実させて、何事も自ら考え判断し、仲間と協働して、自ら創造と変化を引き起こすことができる学校

2 中期的目標

1 確かな学力の定着と学びの深化

- (1) 新学習指導要領の確実な実施と確かな学力の育成のために授業改善を行う。(「」内は学校教育自己診断のアンケート設問事項。以下全て同様。)
 - ア 授業づくりチームを核に、授業見学週間や研究授業、授業アンケートを活用して授業改善に組織的に取り組む。
 - ※ 生徒の「清水谷高校は学ぶ意欲を引き出す授業をしている」の肯定率をR8年度には85%以上にする (R3=78%, R4=78%, R5=74%)。
 - ※ 生徒の授業アンケート全教員平均をR8年度まで3.40以上を維持する (R3 1回目①3.46, 2回目②3.45, R4①3.48, ②3.47, R5①3.47, ②3.47)。
 - イ 1人1台端末やICTを活用した授業を推進し、反転授業など新たな授業形態も研究して主体的・対話的で深い学びの実現を進め生徒の学力の向上を図る。
 - ※ 生徒の「清水谷高校はICT機器を効果的に活用している」の肯定率をR8年度までに85%以上にする (R3=76%, R4=74%, R5=84%)。
 - ※ 生徒の「清水谷高校は1人1台端末を効果的に活用している」の肯定率をR8年度までに80%以上にする (R3=--%, R4=59%, R5=79%)。
 - ウ 新学習指導要領を踏まえた新カリキュラムの確認・見直しや、学年進行による新観点別授業評価を全教員が安定して実施できるようにする。
 - ※ 教員の「教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている」をR8年度90%以上にする (R3=--%, R4=83%, R5=86%)。
- (2) ウィズコロナ、アフターコロナ時代におけるグローバル社会に対応し、活躍できる人材を育成する。
 - ア 多様化・国際化する社会の中で、国際共通語としての英語コミュニケーション力を生徒に習得させるように、校内外での英語使用機会を増加させる。
 - ※ R5年度に復活した本校主催の海外語学研修や海外の学校等を本校に招いて交流する機会をR8年度までに年1回以上行うことを定着させる。(R5=3回)

2 非認知能力を育成する教育機会の充実と希望の進路の実現

- (1) 人種、民族、宗教、国や性の違い、障がいの有無などにかかわらず、多様性を認め合い共生していくための意識を醸成する。
 - ア 人権・多様性を尊重する意識の醸成や、情報モラル、メディアリテラシーに関する知識の向上を図る。
 - ※ 生徒の「清水谷高校は命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」の肯定率をR8年度まで90%以上で維持する (R3=97%, R4=92%, R5=92%)。
 - イ いじめの防止の徹底をする。
 - ※ 生徒の「いじめについて私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」の肯定率をR8年度まで90%以上で維持する (R3=95%, R4=93%, R5=93%)。
- (2) 豊かな心や、社会性、自主性・自立性、やり抜く力などの非認知能力を育てる部活動や自治会活動の仕組み、環境を維持する。
 - ア バランスのとれた心身の成長や、社会性、自主性・自立性、やり抜く力などの非認知能力を育てる部活動や自治会活動ができる仕組み、環境を維持する。
 - ※ 生徒の「清水谷高校は部活動が活発に行われている」の肯定率をR8年度まで90%以上を維持する (R3=96%, R4=96%, R5=97%)。
 - ※ 生徒の「学習と部活動の両立を大切にしている」の肯定率をR8年度まで90%以上を維持する (R3=93%, R4=91%, R5=90%)。
 - ※ 生徒の「清水谷高校は自治会活動が活発に行われている」の肯定率をR8年度まで90%以上を維持する (R3=87%, R4=94%, R5=89%)。
 - ※ 生徒の「清水谷高校は生徒の自主性を重んじている」の肯定率をR8年度までに90%以上にする (R3=86%, R4=85%, R5=83%)。

3 キャリア教育の充実と希望の進路の実現

- (1) 卒業後のみならず、10年後、20年後のその先を見通したキャリア教育の充実を図る。
 - ア 生徒に、大学進学等のその先を見通したキャリアや、社会での役割・使命を意識させる外部講師の講演などを行い、キャリア教育を充実させる。
 - ※ 生徒の「清水谷高校では将来の進路や生き方について考える機会がある」の肯定率をR8年度まで90%以上を維持する (R3=90%, R4=91%, R5=91%)。
- (2) 生徒の希望の進路を実現させる。
 - ア 生徒が、入学から卒業まで全教科をしっかりと学び、学力をつけて希望の進路を実現させるように、進路指導の充実をはかる。
 - ※ R8年度までに国公立大学の進学を希望(3年次4月時点)した生徒の現役合格率40%以上をめざす (R3=30.9%, R4=29.2%, R5=33.8%)。
 - ※ R8年度に国公立大学へ合格者数を卒業生の20%、60名以上にする (R3=14%, 38名, R4=14%, 40名, R5=18%, 49名)。

4 多様な主体との連携や協働の充実と府立学校の魅力づくり

- (1) 地域・大学・企業、同窓会等の連携による探究活動の充実をめざす。
 - ア 総合的な探究の時間等で地域・大学・企業、同窓会などとの連携を模索し、生徒が答えのない問題に取り組み学力の三要素を磨く。
 - ※ R8年度までに社会人による講演や大学等にいる学生先輩講話、大学生や外国人留学生とのインターンシップ交流等の実施を定着させる。
 - ※ 生徒の「清水谷高校は学校外の方たちと交流する機会を設けている」の肯定率をR8年度までに85%以上に定着させる (R3=60%, R4=56%, R5=88%)。
- (2) 府立学校の魅力づくりの追求と効果的な情報発信による募集力の強化を行う。
 - ア 特色や魅力のある教育を行うとともに、効果的で積極的な情報発信や、学校説明会の開催時期と実施方法、実施内容の見直しを行い、志願者増加に繋げる。
 - ※ R8年度までに本校の特色となる学年縦断行事の考案、実施や、地元の中学校との連携強化、ホームページ改訂や新たな広報で積極的な情報発信を行う。
 - ※ R6の募集人員1学級増加後においても、中学生の本校志願倍率をR8年度まで1.1倍以上で定着させる (R4=1.02, R5=1.28, R6=1.21)。

5 力と熱意を備えた教員の育成と学校組織づくりによる「働き方改革」の推進

- (1) 教職員が、カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導や生徒相談をできる資質を養成する。
 - ア 担任団、学年間の連携強化を図るとともに、校内外の教職員研修を通じて教職員がカウンセリングマインドを取り入れた生徒指導等をできる資質を養う。
 - ※ 教員の「カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行っている」の肯定率をR8年度までに90%以上にする (R3=--%, R4=83%, R5=83%)。
 - ※ 生徒の「学校生活についての先生の指導には納得できる」の肯定率をR8年度までに85%以上にする (R3=81%, R4=77%, R5=78%)。
- (2) 「働き方改革」の推進による教職員の長時間勤務の縮減をめざす。
 - ア 健康管理の観点から、分掌業務、会議時間、部活指導時間等の見直しなどで「働き方改革」を追求し、教職員の長時間勤務を縮減する。
 - ※ 教職員1人当たりの平日月間超過勤務時間数をR8年度までにR5年度比で10%減らす (R3 29.5時間, R4 33.5時間, R5 27.5時間／4～12月平均)。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和6年12月実施分〕	学校運営協議会からの意見
1. 生徒 ①「清水谷高校は、入学して良かったと思える学校である」の肯定率が前年度の93%→95%へと2ポイント上昇した（95%のうち高く肯定した者が61%）。②「学校へ行くのが楽しい」の肯定率も3年間で89%→91%→94%に上昇した。①については77期生の3年生が昨年度93%から今年度96%に上昇、78期生の2年生も92%から94%に上昇、79期生の1年生も96%が肯定的な回答をしている。②も3年生が3年間で89%→90%→93%に上昇し、2年生も93%→94%に上昇しており、1年生も今年度94%が肯定的な回答をした。<u>これらから本校に対する生徒の入学満足度は着実に且つ極めて高くなっていると思われる。</u> ③「適切なレベルと進み具合で授業をしている」83%→87%、④「学ぶ意欲を引き出す授業をしている」74%→82%、⑤「教材や教え方に工夫をしている」79%→85%、⑥「学習習慣を定着させる指導をしている」75%→83%、⑦「納得できる授業評価をしている」90%→93%と、<u>授業に関する肯定率が全て昨年度比で伸長しており、授業満足度が着実に上昇している。さらに改善、向上させたい。</u> ⑧「進路についての適切な情報を知らせてくれる」87%→92%、⑨「将来の進路や生き方について考える機会がある」91%→95%と高レベルで昨年度比肯定率が上昇している。<u>進路指導に関する満足度が高く、これを継続発展させたい。</u> ⑩「部活動が活発に行われている」97%→98%、⑪「学習と部活動の両立を大切にしている」90%→94%、⑫「学校行事に積極的に参加できる」93%→97%、⑬「自治会活動が活発に行われている」89%→90%、⑭「生徒の自主性を重んじている」83%→90%、⑮「活発なクラス活動が行われるよう指導している」87%→93%と昨年度比で肯定率が上昇しており、<u>部活動や、学習と部活動の両立、学校行事、自治会活動、クラス活動の満足度は非常に高い。自主性尊重も大幅向上した。</u> ⑯「学校生活についての先生の指導には納得できる」78%→86%、⑰「担任の先生以外にも保健室や相談室で気軽に相談することができる先生がいる」74%→79%、⑱「いじめについて私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」93%→96%、⑲「清水谷高校では命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」92%→96%と昨年度比肯定率が上昇した。<u>学校生活の満足度は高い水準にあると考えられるが、一層の向上を図りたい。</u> ⑳「校内の清掃活動がきちんと行われるように指導している」88%→92%、㉑「施設・設備を整えている」76%→87%、㉒「火災や事件が起こった場合、どう行動したらよいか生徒に周知している」90%→94%と何れも昨年度比肯定率が上昇した。<u>全てのトイレの様式化や、本校がリーディングGIGAハイスクール及びDXハイスクールの採択校になり、施設・設備等が充実したこと、防災訓練で具体的な避難の確認をしていることが肯定率の向上に繋がったと思われる。</u> ㉓「学校外の方たちと交流する機会を設けている」の肯定率が昨年度比88%→81%に下げた。3年生が94%→93%、2年生が96%→83%、1年生が77%の肯定率だった。<u>昨年度はアンケート実施時期にオーストラリアの高校生10名が1週間来校し全学年で交流したが、今年度は無かったことも影響したと思われる。</u> ㉔「ICT機器を効果的に活用している」の肯定率が最近3年間で74%→84%→93%と2年で19ポイント増加し、㉕「1人1台端末を効果的に活用している」の肯定率も最近3年間で58%→79%→92%と2年で34ポイント急上昇した。<u>本校がリーディングGIGAハイスクールとDXハイスクールの採択校になり、電子黒板等の設備が充実し、校内研修も繰り返し実施して、利用するソフトウェアも共有したことで、多くの教員が利用していると考えられる。</u> ・以上25項目中24項目で前年度を上回る結果となった。次年度にも繋げたい。 2. 保護者 ①「子どもが入学して良かったと思える学校である」の肯定率が前年度の96%から今年度は97%へと1ポイント上昇（97%のうち高く肯定した者が69%）し、②「子どもは、清水谷高校に行くのを楽しみにしている」の肯定率も3年間で89%→92%→93%に上昇しており、<u>生徒と同じ様に、保護者の本校に対する入学満足度が着実に且つ極めて高くなっていることが伺える。</u> ③「PTA活動が活発に行われている」の肯定率が最近3年で68%→80%→74%とアップダウンした。<u>働き方改革に合わせて、PTAの各委員会を廃し、ボランティア化するなどPTA業務の軽量化や組織改正を昨年度中に決定し、今年度から実施したことが影響したと思われるが、PTA業務自体に対する時代の要請が変化しており、本指標は今後廃止を含めた見直しが必要と考える。</u> ⑤「子どもの学習評価を適切・公平に行っている」の肯定率は最近3年で85%→89%→90%に、⑥「将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている」の肯定率は最近3年で80%→79%→85%に、⑦「部活動や行事から多くのことを学べるよう指導している」の肯定率は最近3年で87%→87%→90%に、⑩「教育活動を行うための施設・設備を整えている」の肯定率が最近3年で81%→83%→87%に、⑰「教育情報について提供の努力をしている」の肯定率が最近3年で73%→82%→85%に、⑱「清水谷高校の授業参観や学校行事に参加したことがある」の肯定率が最近3年で48%→81%→87%に、⑲「ICT機器を効果的に活用している」の肯定率が最近3年で61%→72%→81%になど、<u>全19項目中16項目でポイントが上昇している。</u> 3. 教職員 ①「生徒が入学してよかったと思える学校である」100%→100%、㉑「ICT機器を効果的に活用している」86%→100%と2項目が100%の肯定率になった。 ④「進路に関して家庭への連絡や情報提供を適切に行っている」の肯定率が75%→86%→96%と3年間で21ポイント向上した。<u>進路や給付型奨学金等に係る連絡や情報発信をWeb等できめ細かくしていることの影響と考えられる。</u> ⑰「大学や中学校、地域の人たちとの交流・連携や国際交流などの活動を積極的に進めている」が38%→86%→89%と伸びた。<u>新型コロナの影響が無くなり、幼稚園や保育園での家庭科実習や、グローバルインターンシップの受け入れ、ニュージーランド語学研修などを積極的行ったことによると考えられる。</u> ⑲「学校の教育活動について教職員間で日常的に話し合っている」が3年間で59%→64%→78%と上げたのに対し、③「教育活動全般にわたる評価を行い次年度の計画に生かしている」84%→86%→74%、⑱「各分掌や学年間の連携・協力が円滑に行われている」41%→67%→50%と2つが前年度から大きく低下した。<u>今年度当初に教職員室を教科ごとの配置から担任団ごとの配置に改造したことや、3年間で学校改革を急激に進めてきたこと、回答数が全教職員の半数にだったことの影響もあると思われる（全21項目で7項目が低下）。</u>	【第1回】令和6年7月10日〔委員からの質問意見など〕 （1）令和5年度学校経営計画及び学校評価の最終版報告、並びに令和6年度学校経営計画及び学校評価の進捗状況について ・制服以外に、トランスジェンダーへの対応状況はどうなっているか。ケースバイケースで本人や保護者と対話を丁寧にすることで進めていくのが良い。 ・今年の1年生は1クラスが増えたが、生徒の様子は変わったか。 ・部活動と学習の両立をさせるための学校としてのしくみはあるか。 ・教員をめざす大学生の中にも、部顧問を希望しない学生が増えているため、部活動のあり方については考えていく必要がある。 ・授業の受け方とテスト1週間前の部活動のない期間の過ごし方などを充実させると良い。 ・部活動顧問も生徒の成績に気をつけたり、担任も生徒の部活動の様子などに気をつけたりなど、すべての先生が生徒を全体的に見ていくと良い。 ・DXハイスクール指定されて取り組んでいることは何か。 ・DXハイスクールの情報Ⅱに期待しており、充実させてほしいが、全員受けている情報Ⅰの内容についても充実させてほしい。 ・国際交流で海外研修に参加できる生徒は限定されるので、昨年度のオーストラリアの高校生の受け入れや今年度の関西外国語大学の外国人留学生グローバルインターンシップを受入れる様な全校生徒が国際交流できる機会を増やしてほしい。 ・部活動や自治会活動だけではなく、普段の授業を通して非認知能力を育成する意識を持って取り組んでほしい。 ・教職員の長時間勤務を減らすだけではなく、教職員がこの職場で働いて得るものがあると感じられるような職場づくりをしてほしい。 ・国公立大学の進学については、最初から第一希望を決めて、塾に行かず、学校の授業のみで希望学部に進学することができた。講習も内容が充実していて非常に良かった。講習には定員を設けずに希望者が全員受けられるようにしてほしい。 ・講習中に部活の音が邪魔になるケースがあった。講習を受けている生徒と受けていない生徒をゾーン分けして、講習に集中できる環境づくりをしてほしい。 ・清水谷高校のPTA規約や制服の変更をモデルにしている中学校があり、清水谷を誇らしく思った。 ・PTA規約が変わって初年度であり不安も大きかったが、良い雰囲気が進めることができている。 （2）学力生活実態調査結果及び76期生進路状況について ・学力生活実態調査の経年変化はどうか。 ・国公立大学の進学者数が多いのはなぜだと考えるか。 ・自分の進路希望を貫く浪人生がいることは誇らしいことである。 ・子どもは遠い将来のことは想定しにくい中で、清水谷は押し付けではなく先のことを見せてくれる先生方が多いように感じており、生徒が最後まで粘る原動力になっていると考える。 【第2回】令和6年12月11日〔委員からの質問意見など〕 《授業見学をして》 ・教員のプレゼンテーション力が、我々の時とは違う。 ・対話型の授業を見学して ・今の社会では、表現力・調整力が必要。参加型授業は将来を見据えた授業といえる。 ・作業的授業こそ対話型に展開できる。 ・ファシリテーター力の強い先生方をたくさん見ることができた。 ・ICTをどの教室でも使っていて、ICTの進化を感じた。 ・グループ活動の授業が多いが、一人が良い生徒への配慮はどうなっているか。 ・生徒をリスペクトしている授業へ変化している。例えば生徒を呼び捨てにせず「〇〇さん」と生徒にアプローチしている。 （1）令和6年度学校経営計画及び学校評価の進捗状況について ・感染症での欠席者や不登校生徒へのリモート授業の実施状況について確認→規定通り実施している。不登校生徒については対象生徒一人ひとりについて会議で見立て、希望する生徒に実施している。 ・文化祭での幼稚園交流は高校生の心の教育に非常に良い取り組みである。 ・オープンスクールの対象学年についての確認→対象学年は制限していないが、10月は1、2年生が多く、12月、1月は3年生の割合が増えていく。 ・探究の授業はどのように進めていっているのか。 →調べ学習と大学で作成する論文との間を繋げるような授業展開を意識している。 ・中学校によって受験校を決める時期は様々である。中学校の先生向けの学校説明会も実施してほしい。 ・他教科の授業を見るのは大切である。自教科・他教科を見て、振り返りミーティングをするという仕組みは良いので続けてほしい。また、授業見学週間について、教員はどのような意識で参加しているのか、参加者数はどうか。 →参加する教員は近年増えている。生徒の授業アンケートの点数も上昇しており、効果があると考えている。教員の意識については可能な限り多くの先生の意識を上げていきたい。 ・生徒は先生を選べないので、多くの先生に授業改善に取り組んでほしい。 ・非認知能力を伸ばしていくのは非常に重要である、「行事や部活で伸ばす」と切り分けずに、普段の授業から非認知能力を伸ばすことを意識した授業づくりをしてほしい。 （2）その他 ・食堂の使い道について、HP等に食堂の変容についてアップしてほしい。 【第3回】令和7年2月19日〔委員からの質問意見など〕 ・入学時よりキャリア教育等を通じて進路に取り組む意識が高まり、それが学年全体の雰囲気となり最終的な進路実績につながった点は評価できる。 ・生徒全体の仲間意識が強く、日々学習に取り組み受験に臨む雰囲気があった。 ・生徒・保護者の満足度は高いが、教員の意思疎通が十分でないことが課題。 ・生徒の各項目の満足度は高いので、現状維持をめざして欲しい。 ・「PTA活動が活発に行われている」という項目の表現の見直しが必要ではないか。 ・教職員の学校教育自己診断の回答率を上げる方法を考えて欲しい。

府立清水谷高等学校

	・働き方改革の揺り戻しで勤務時間が増えている学校が増えていると聞いている。 清水谷高校もその点に留意しながら働き方改革を進めていただきたい。 ・非認知能力を学校教育全体で育むという共通認識を高める必要があるのでは。
--	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標 [R5年度値]	自己評価
1 確かな学力の定着と学びの深化	(1) 新学習指導要領の確実な実施と授業改善 ア 授業づくりチームを核とした授業改善	(1) 新学習指導要領の確実な実施と確かな学力の育成のために授業改善を行う。 ア 授業づくりチームを核に授業見学週間や研究授業、授業アンケートを活用して授業改善に組織的に取り組む。授業見学週間では指定された研究授業1つを含む2つ以上の授業を見学し、研究協議に臨み、改善を図る。	(1) ア・生徒の「清水谷高校は学ぶ意欲を引き出す授業をしている」の肯定率を80%以上にする[74%]。 ・生徒の授業アンケート全教員平均を3.40以上を維持する[3.47]。	(1) ア・生徒の「清水谷高校は学ぶ意欲を引き出す授業をしている」の肯定率は82%でこれまでで初めて80%を超えた。(○)
	イ 1人1台端末やICTを活用した授業推進と生徒の学力の向上 ウ 新カリキュラムの確認・見直し、新観点別授業評価の安定実施 (2) グローバル社会に対応し、活躍できる人材の育成 ア 校内外での英語使用機会の増加	イ 1人1台端末やICTを活用した授業を推進し、反転授業など新たな授業形態も研究して主体的・対話的で深い学びの実現を進め生徒の学力の向上を図る。1人1台端末やICTの活用方法について、研究協議等で教員間の情報交換の機会を設ける。 ウ 新学習指導要領を踏まえた新カリキュラムの確認・見直しや、学年進行による新観点別評価を全教員が安定して実施できるようにする。新学習指導要領や新観点別評価について、研究協議等で教員間の情報交換の機会を設ける。 (2) ウィズコロナ、アフターコロナ時代におけるグローバル社会に対応し、活躍できる人材の育成 ア 多様化・国際化する社会の中で、国際共通語としての英語コミュニケーション力を生徒に習得させるように、校内外での英語使用機会を増加させる。	イ・生徒の「清水谷高校はICT機器を効果的に活用している」の肯定率を85%以上にする[84%]。 ・生徒の「清水谷高校は1人1台端末を効果的に活用している」の肯定率を80%以上にする[79%]。 ウ・教員の「教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている」の肯定率を88%以上にする[86%]。 (2) ア・R5年度に3年ぶりに復活した本校主催の海外語学研修や海外の学校等を本校に招いて交流する機会をR8年度までに年1回以上行うことを定着させる。(R5=3回)	・生徒の授業アンケート全教員平均は1回目①3.54、2回目②3.56で、2回とも3.5を超える極めて高い水準となった。(◎) イ・生徒の「清水谷高校はICT機器を効果的に活用している」の肯定率は93%で、前年比9ポイント、前前年比19ポイントと大幅に向上した。(◎) ・生徒の「清水谷高校は1人1台端末を効果的に活用している」の肯定率は92%で、前年比13ポイント、前前年比33ポイント飛躍の向上をした。(◎) ウ・教員の「教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている」の肯定率は74%で12ポイント低下した。(△) (2) ア・6月には関西外国語大学のアメリカ人とウクライナ人の留学生2名を1ヶ月間グローバルインターンシップで受入れ、7月～8月には本校主催のニュージーランド語学研修を26名参加で実施、また5月にはバンコック教育庁の訪日団も受入れた。(○)
2 非認知能力を育成する教育機会の充実と希望の進路の実現	(1) 多様性を認め合い共生していく意識の醸成 ア 人権・多様性の尊重意識の醸成や情報モラル等に関する知識の向上 イ いじめ防止の徹底	(1) 人種、民族、宗教、国や性の違い、障がいの有無などにかかわらず、多様性を認め合い共生していくための意識を醸成する。 ア 人権・多様性を尊重する意識の醸成や、情報モラル、メディアリテラシーに関する知識の向上を図る。 イ いじめの防止の徹底をする。	(1) ア・生徒の「清水谷高校は命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」の肯定率を90%以上で維持する[92%]。 イ・生徒の「いじめについて私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」の肯定率を90%以上で維持する[93%]。	(1) ア・生徒の「清水谷高校は命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」の肯定率は96%と大きく伸びた。(◎) イ・生徒の「いじめについて私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」の肯定率は、96%で、目標を上回る高い数字になった。(◎)
	(2) 非認知能力を育てる部活動や自治会活動の仕組み、環境を維持 ア 非認知能力を育てる部活動や自治会活動ができる仕組み、環境を維持	(2) 豊かな心や、社会性、自主性・自立性、やり抜く力などの非認知能力を育てる部活動や自治会活動の仕組み、環境を維持する。 ア バランスのとれた心身の成長や、社会性、自主性・自立性、やり抜く力などの非認知能力を育てる部活動や自治会活動ができる仕組み、環境を維持する。校則の見直しについて、生徒の意見を反映するような仕組みや活動を自治会とともに検討し、進めて行く。	(2) ア・生徒の「清水谷高校は部活動が活発に行われている」肯定率90%以上を維持する[97%]。 ・生徒の「学習と部活動の両立を大切にしている」肯定率90%以上を維持する[90%]。 ・生徒の「清水谷高校は自治会活動が活発に行われている」の肯定率を90%以上にする[89%]。 ・生徒の「清水谷高校は生徒の自主性を重んじている」の肯定率を90%以上にする[83%]。	(2) ア・生徒の「清水谷高校は部活動が活発に行われている」肯定率は98%と一層伸びた。(◎) ・生徒の「学習と部活動の両立を大切にしている」肯定率は94%で大きく伸びた。(◎) ・生徒の「清水谷高校は自治会活動が活発に行われている」の肯定率は90%で目標を達成した。(○) ・生徒の「清水谷高校は生徒の自主性を重んじている」の肯定率は90%で、大きく伸びて目標を達成した。(○)

府立清水谷高等学校

3 キャリア教育の充実と希望の進路の実現	(1) 20年後のその先を見通したキャリア教育の充実 ア 外部講師の講演等によるキャリア教育の充実 (2) 希望の進路の実現	(1) 卒業後のみならず、10年後、20年後のその先を見通したキャリア教育の充実を図る。 ア 生徒に、大学進学等のその先を見通したキャリアや社会での役割・使命を意識させる外部講師の講演などを行い、キャリア教育を充実させる。 (2) 生徒の希望の進路を実現させる。 ア 生徒が、入学から卒業まで全教科をしっかり学び、学力をつけて希望の進路を実現させるように、進路指導の充実をはかる。	(1) ア・生徒の「清水谷高校では将来の進路や生き方について考える機会がある」の肯定率 90%以上を維持する[91%]。 (2) ア・国公立大学へ進学を希望(3年次4月時点)した生徒の現役合格率 35%以上をめざす[34%]。 ・国公立大学へ合格者数を卒業生の18%、50名以上にする[18%, 49名]。	(1) ア・生徒の「清水谷高校では将来の進路や生き方について考える機会がある」の肯定率は95%となり、目標を大きく上回った。(◎) (2) ア・国公立大学へ進学を希望(3年次4月時点)した生徒の現役合格率は34.4%であった。(○) ・国公立大学へ合格者数は卒業生の17%となる45名であった。(△)
4 多様な主体との連携や協働の充実と府立学校の魅力づくり	(1) 地域・大学・企業、同窓会等の連携による探究活動の充実 ア 地域・大学・企業、同窓会などの連携を模索し、学力の三要素を磨く (2) 府立学校の魅力づくりの追求と効果的な情報発信による募集力の強化 ア 特色ある教育と効果的で積極的な情報発信で募集力強化再建	(1) 地域・大学・企業、同窓会等の連携による探究活動の充実をめざす。 ア 総合的な探究の時間等で地域・大学・企業、同窓会などとの連携を模索し、生徒が答えのない問題に取り組み学力の三要素を磨く。 (2) 府立学校の魅力づくりの追求と効果的な情報発信による募集力の強化を行う。 ア 他と異なる特色や魅力のある教育を行うとともに、広報媒体の見直しや、効果的で積極的な情報発信で募集力を強化する。 ・学校説明会の開催時期と実施方法、実施内容の見直しを行い、志願者増加に繋げる。	(1) ア・社会人等による講演や大学等に在る学生の先輩講話、大学生や外国人留学生とのインターンシップ交流等の実施を定着させる。 [3回] ・生徒の「清水谷高校は学校外の方たちと交流する機会を設けている」の肯定率を85%以上に定着させる[88%]。 (2) ア・特色となる学年縦断行事の考案、実施、改編や、地域の企業、団体、中学校等との連携強化策を行う。 ・ホームページやブログ等で積極的に情報発信する。 ・学校説明会の開催時期と実施方法・内容を見直す。 ・中学生の本校志願倍率を1.1倍以上に定着させる[1.21]。	(1) ア・社会人等による講演は、5月に2年生に新聞社専門編集委員の講演、7月に1、2年生にロボット制作会社の社長の講演、1月に1年生にフリーアナウンサーの講演を実施、1月は2年生が大阪市天王寺区の総務企画課の講演と選挙模擬投票をした。外国人留学生のインターンシップ交流は6月に関西外国大学留学中のアメリカ人とウクライナ人大学生を1か月グローバル・インターンシップで受入れ交流を行った。[5回](○) ・生徒の「清水谷高校は学校外の方たちと交流する機会を設けている」の肯定率は81%だった(△)。 (2) ア・地域の企業、団体、中学校等との連携強化策では、近隣の中学校区にある大阪市立の2幼稚園、2小学校と1中学校のPTAで成る5校園成人教育講演会に依頼され、講師としてフリーアナウンサーを紹介し本校がオブザーバーで初参加した。また上記の2幼稚園と2小学校に加えて新たに3保育園で家庭科実習や避難訓練受入れをした。(○) ・校長ブログは1年間で昨年比1.3倍になる730件のブログ記事を載せ積極的に情報発信した。(○) ・学校説明会の開催時期と実施方法等を見直して昨年度より1回少ない開催で、昨年度と概ね同数の中学生と保護者計2,710名の参加を得た。(○) ・中学生の本校志願倍率は1月集計値で1.16倍になっている(○)。
5 力と熱意を備えた教員の育成と学校組織づくりによる「働き方改革」の推進	(1) カウンセリングマインドによる生徒指導、相談の資質養成 ア カウンセリングマインドによる生徒指導、相談の資質の養成 (2) 「働き方改革」の推進による教職員の長時間勤務の縮減 ア 健康管理の観点から「働き方改革」を追求し、教職員の長時間勤務を縮減	(1) 教職員が、カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導や生徒相談をできる資質を養成する。 ア 担任団の生徒に係る即時情報共有や円滑な相互連携ができる座席配置等を検討実施する。 ・学年縦断の連携に資する行事を検討実施する。 ・校内外の教職員研修を通じて、教職員がカウンセリングマインドを取り入れた生徒指導や生徒相談に応えられる資質を養成する。 (2) 「働き方改革」の推進による教職員の長時間勤務の縮減をめざす。 ア 健康管理の観点から、分掌業務、会議時間、部活指導時間等を見直しなどで「働き方改革」を追求し、教職員の長時間勤務を縮減する。 ・定時退庁日や学校閉庁日の徹底、部活動指針の遵守徹底により、教員の超過勤務を削減する。	(1) ア・担任団の連携強化策の検討実施。 ・学年相互連携強化策を将来構想委員会で検討の上実施する。 ・生徒の「学校生活についての先生の指導には納得できる」の肯定率を80%以上にする[78%]。 ・教員の「カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行っている」の肯定率85%以上にする。[83%] (2) ア・教職員1人当たりの平日月間超過勤務時間数をR5年度比で5%減らす[R5年度27.5時間／4～12月平均]。	(1) ア・担任団の連携強化策の検討実施。 ・従来職員室は教科単位だけの座席配置になっていたものを4月から担任団ごとの座席配置にし直し、担任団同士で日常的に情報交換出来る体制を作った。9月には学年ごとの外線直通電話を設け、生徒情報も日常的に相互に共有できるようになった。相互連携習慣の更なる強化が課題(△)。 ・生徒の「学校生活についての先生の指導には納得できる」の肯定率は目標を大きく上回る86%になった(◎)。 ・教員の「カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行っている」の肯定率は目標を上回る89%になった。(○) (2) ア・教職員1人当たりの平日月間超過勤務時間数はR5年度比で3.6%増の28.5時間／4～12月平均になっている。1人1台端末を活用した授業作りの為の準備や、今年度から始まった不登校生徒のオンライン配信のケース会議と実施対応、部活動顧問等で、教員間に業務量の不均衡が目立っており、次年度から1人当たりの授業時数増と分掌長等の時数軽減の見直しを実施するとともに部活数や活動時間の見直しをする(△)。